

二九精密機械

八木第2工場が完成

極細管の研磨能力倍増

二九精密機械工業(本社=京都市南区、二九良三社長)は、八木工場(京都市南区)において第2工場を完成させる。医療分野で使われるステンレスやチタン合金の極細管の研磨・検査・加工を行い、京都工場(京都市南区)との2拠点

体制を構築する。新工場棟の建築・設備の総投資額は約7億円。八木工場はこれまで、ステンレスの精密部品などの機械加工を行う拠点として事業展開してきた。一方、2012年に取得した京都工場では、医療・分析機器向けのノズル製

品の組み立てや、極細管の製造・加工を行っていたが、受注増加によって手狭になっていた。八木工場の敷地内に新設された第2工場は、今年初めに着工して完成に近づいており、今月半ばに工業者から引き渡される予

定。工場建屋は2階建てで、延べ床面積は約2600平方メートル。2階にクリーンルームを設置し、粗研磨、仕上げ研磨、流体研磨などの極細管の研磨工程一式をそろえる。1階は医療関連部品を加工する工作機械などを設置す

る。製造認可を受けた後、10月から本格稼働する予定。新工場では京都工場



10月稼働予定の八木第2工場

と同等以上の設備体制を有することになり、同社が国内で唯一内製するβチタン(ベータチタン)管を含めた極細管の製造能力は2倍以上となる。2拠点体制とすることでBCP(事業継続計画)対策で顧客満足度の引き上げにもつながる。R&Dセンターを併設する京都工場では、医療関連のニーズの高まりとともに製造部門の比重が大

きくなっていたが、八木第2工場の稼働によって研究開発部門への注力が期待される。同社は医療・分析・一般産業向けの装置開発から、精密機械部品の切削加工や組み立て、ステンレス・βチタン・ニッケル合金・コバルト合金などの極細管の製造・販売までを手掛ける加工メーカー。医療分野部品で高い国際シェアを有しているとして、このほど経済産業省が認定する2020年版「グローバルニッチトップ企業100選」に選ばれた。